

国際交流基金助成事業報告書

薬学研究科 薬学専攻
博士課程 2年
北廣 優実



本学国際交流基金の助成を受け、平成 30 年 2 月 26 日から 3 月 10 日にかけてオーストラリア薬学語学研修に参加しましたのでここに報告いたします。

1. 滞在先 Kingscliff

Kingscliff (キングスクリフ) (図 1) はニューサウスウェールズ州の最北に位置し、クィーンズランド州との州境にある町です。ガイドブックには掲載されておらず、インターネットで検索しても十分な情報は得られません。町のすぐ近くには美しいビーチが広がっており、多くの人がサーフィンや海水浴を楽しんでいました。滞在中の季節は夏で、日差しは強いですが、風もあり過ごしやすい気候でした。一方で突然の豪雨が多々あり、天気の変化は激しいものでした。



図 1 キングスクリフの標識

2. 研修校 North Coast TAFE kingscliff Campus



図 2 研修校 TAFE



図 3 校内の様子

TAFE (Technical and Further Education) (図 2, 3) は、州立の高等職業訓練専門学校です。生徒の多くは現地の人々ですが、留学生を対象とした様々な専門コースや英語コースも開講されています。校内には、薬学、看護、マッサージ、調理師、美容師など様々な分野の専門コースがありました。また、専門知識や実践力を強化することを目的に働きながら TAFEに通う人も多く、生徒の年代は様々でした。校内は広く、図書館やレストラン、カフェテリアなど、充実した施設が備わっていました。

3. 研修内容



図4 教室の様子

平日は TAFE に通い、研修に参加した 14 名で、主に English Class と Pharmacy Class の 2 つの授業を受講しました (図 4)。

English Class では、ゲームやグループワークを通してオーストラリアの地理や文化、動物について学びました。また、日々の生活で得た知識やホームステイ中の出来事について発表する機会も多くあり、少しずつ英語に慣れることが出来ました。

Pharmacy Class では、オーストラリアの保険制度や、処方箋、医薬品の分類などの医療制度について学びました。

オーストラリアでは、全国民を対象とした Medicare (メディケア) という保険制度が導入されています。納める金額は収入に応じて異なっています。全国民が所持しているメディケアカード(図 5)に加えて、高齢者や戦争体験者など規定の対象者は異なるカードも所持しており、医療費の負担が軽減されます。

処方箋については、日本と大きく異なっていました (図 6)。オーストラリアの処方箋の有効期限は 1 年間と日本と比較して長期であり、期限内は病院を受診せずに処方箋薬が受け取れる「リフィル処方箋」が使用されています。その他、医薬品の分類や薬局の調剤助手 (テクニシャン) についても学び、日本とオーストラリアにおける医療制度の違いを見つけました。



図5 メディケアカード



図6 処方箋

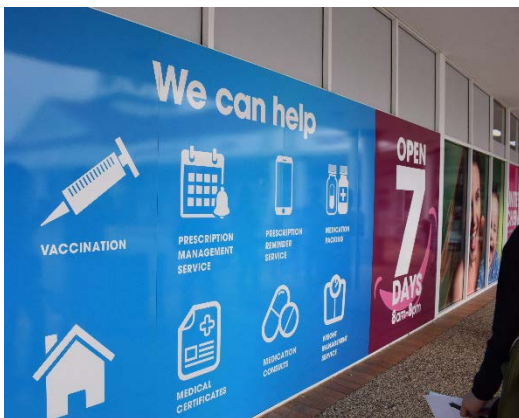


図7 見学した薬局

校外学習では、2 か所の薬局を訪問し現地の薬剤師の仕事を視学しました (図 7, 8, 9)。Chemist (オーストラリアの薬局) は、日本ではドラッグストアの位置づけであり、医薬品だけでなく化粧品やシャンプーなどの生活用品も販売されています。薬局を見学して、日本よりも医薬分業システムが発展していると感じました。具体的な例として、テクニシャンが患者の血圧を無料で測定、データを管理し、その結果に対して薬剤師がコメントするサービスが普及していることや、認定された薬剤師や看護師によるインフルエンザワクチンの接種が行われていることが挙げられます (図 10)。これ

らの背景には、保険料の負担割合により違いはありますが、一般的に病院を受診すると高額な費用がか

かることが挙げられます。このため、患者の多くは病院を受診する前に来局し、薬剤師が症状などを問診したうえで一般薬を提示する場合や、病院の受診を勧めるという場合が多いことを知りました。



図 8 薬局内の様子



図 9 調剤室の様子



図 10 インフルエンザワクチン接種の為の部屋

オーストラリアのアボリジニ文化を学ぶため、Fingal Head という場所を訪れました。実際にその場で果実や花を食べながら、それらの植物がどのような用途で使用されていたのかを学びました (図 11, 12, 13)。用途は様々で、虫よけや痛み止めといった薬の目的で使用されていたものから、季節を知るためのカレンダーとして使用されていた植物もあり、様々な驚きがありました (図 14)。



左から図 11, 図 12, 図 13 アボリジニ伝統の植物



図 14 植物採集の様子

その他、現地の小学生と文化交流する機会や (図 15)、TAFE のメディカルマッサージクラスの生徒に施術をしてもらう機会もあり (図 16)、現地の多くの方々と交流することができました。マッサージクラスには将来日本で働くことを目的とする方も在籍しているため、多くの方が日本語を勉強していました。また、ワーキングホリデーを利用している日本の方もいらっしゃったため、様々なお話を聞くことが出来ました。



図 15 STAMBROSE 小学校の学生



図 16 マッサージ問診表

4. 放課後、休日

放課後は、ホストファミリーとビーチで散歩をしたり、近所のスーパーで買い物をしたりしました(図 17)。授業が休みの日曜日は、ホストファミリーとジェットボートに乗って海釣りに出かけました(図 18, 19)。また、研修参加者と Currumbin Wildlife Sanctuary に行く機会もあり、オーストラリアの動物を見て楽しみました(図 20, 21)。ここは動物を保護している場所でもあり、施設内には病院も併設されていました(図 22)。また、サーフレッスンを受け、初めてのサーフィンも体験し、オーストラリアのアクティビティを楽しみました。



図 17 現地のスーパー



図 18 釣りの様子



図 19 釣った魚



図 20 Currumbin Wildlife Sanctuary



図 21 施設内のコアラ



図 22 施設内の病院

5. おわりに

今回、ホテルに滞在するのではなくホームステイしたことで、現地の方々の暮らしがよく分かり、その土地や文化を深く知ることができました。今回滞在したキングスクリフは、都会から離れた町で常に自然を感じられる場所でした。生活はどこかゆったりとしており、平日の夕方にビーチを散歩したり、近所の方とお茶をしながらおしゃべりする機会も多かったです。このような場面は私の日常生活にはないものだったので、とても贅沢な時間でした。ある日の授業の課題で、ホストファミリーに「これまで訪れた場所で一番好きな場所」について尋ねたことがありました。翌日、皆で課題の回答について話し合うと、私のホストマザーも含めた多くが「今住んでいる場所（キングスクリフ）」と回答しており、大変驚きました。このように、私が感じた以上に、滞在した町は現地の人々にとっても住みやすく、心地のよい場所なのだ実感しました。また、現地の生活の素敵などところをたくさん見つけられたと同時に、自分の生活の良いところにも改めて気づくことが出来ました。



図 23 TAFE での昼食

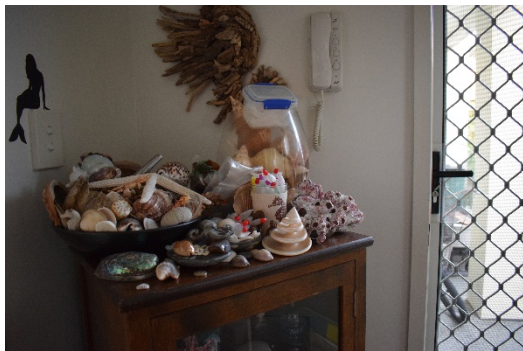


図 24 ホームステイ先の玄関

この研修に参加したことで、視野が大きく広がったと感じています。これまで、自分の今いる環境が当たり前で、これが全てのように感じていました。しかし、決してそうではなく、住む場所や仕事など、様々な選択肢があることを実感しました。2週間という短い期間でしたが、私にとって忘れられない貴重な経験になりました。語学に対する課題や今後の目標を見つけることが出来たので、この経験を生かし、これからの人生を豊かなものにしたいです。

最後になりましたが、助成申請を受理してくださいました国際交流委員会の先生方、事前説明会から研修中にかけて長期にわたり私達をサポートしてくださいました近畿日本ツーリストの皆様、渡豪に当たり支えてくださったすべての方々に心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

